

日本現代詩大系

第十二卷

日本現代詩大系

第十二卷

河出書房新社

日本現代詩大系 第十二卷

編集

日夏耿之介

山宮 允

矢野峰人

三好達治

中野重治

大岡 信

昭和五十一年二月二十日 印刷
昭和五十一年二月二十七日 発行

編者 大岡 信

発行者 佐藤皓二

印刷 中央精版

製本 中央精版

発行所 河出書房新社

東京都千代田区神田小川町三ノ六

電話(〇三)二九二(三七一一)

振替 東京一〇八〇二

目次

マンモスの牙抄	草野心平	七
こわれたオルガン抄	草野心平	三
侏羅紀の果ての昨今抄	草野心平	四
胴体抄	高橋新吉	六
雀抄	高橋新吉	六
新世界交響楽抄	岡崎清一郎	三
馬淵美意子のすべて抄	馬淵美意子	四
けものみち抄	鳥見迅彦	四
なだれみち抄	鳥見迅彦	五
天下	緒方昇	五
日子抄	緒方昇	五

折れた竿抄	緒方 昇	五
夢幻詩集抄	及川 均	六
焼酎詩集抄	及川 均	六
葉と風との世界抄	山崎榮治	六
聚落抄	山崎榮治	七
女庭師抄	山崎榮治	七
鹹湖抄	會田綱雄	七
狂言抄	會田綱雄	八
汝抄	會田綱雄	八
河童抄	宗 左近	八
大河童抄	宗 左近	八
炎える母抄	宗 左近	八
花の店抄	安西 均	九
美男抄	安西 均	一〇

葉の桜抄		安西 均	二六
現 存 抄		新藤千恵	二二
マニエリスムの人魚抄		新藤千恵	二四
飢 火 抄		生野幸吉	二五
生野幸吉詩集抄		生野幸吉	二九
歩行者の祈りの唄抄		山本太郎	二三
山本太郎詩集抄		山本太郎	二三
糺問者の惑いの唄抄		山本太郎	二四
死 法 抄		山本太郎	二六
非 望 抄		金井 直	二〇
飢 渴 抄		金井 直	二四
疑 惑 抄		金井 直	一九
無実の歌抄		金井 直	二〇
私の前にある鍋とお釜と燃える火と抄		石垣りん	二五

表札など抄		石垣りん	一五
大地の一隅抄		風山瑕生	一六
自伝のしたたり抄		風山瑕生	一六
虚像抄		粒來哲藏	一七
舌のある風景抄		粒來哲藏	一七
孤島記抄		粒來哲藏	一七
みやらび抄		知念榮喜	一八
エスキス抄		鎌田喜八	一八
幻影哀歌抄		岡田刀水士	一八
湿原抄		岡安恆武	一八
高内壯介詩抄		高内壯介	一九
幼年連禱抄		吉原幸子	一九
昼顔抄		吉原幸子	一九
オンデイース抄		吉原幸子	二〇

巨人の夢抄	嶋岡 晨	二〇三
人間誕生抄	嶋岡 晨	二〇三
永久運動抄	嶋岡 晨	二〇九
青い部屋抄	吉行理恵	二一〇
幻 影抄	吉行理恵	二一一
夢のなかで抄	吉行理恵	二二三
世界の構造抄	粕谷榮市	二二六
カラス麦抄	日高てる	二二九
原民喜詩集抄	原 民喜	二三三
寺田透詩抄	寺田 透	二三五
堀田善衛詩抄	堀田善衛	二三七
永瀬清子詩集抄	永瀬清子	二三九
秋湖ひとつ抄	笹澤美明	二三三
故 園抄	島崎光正	二三五

高見順詩集抄		高見順	二二七
わが埋葬抄		高見順	二三八
死の淵より抄		高見順	二四〇
花抄		土橋治重	二四四
STORY抄		土橋治重	二四五
異聞詩集抄		土橋治重	二四七
葉抄		土橋治重	二五〇
都市幻想抄		上林猷夫	二五三
機械と女抄		上林猷夫	二五五
遠い行列抄		上林猷夫	二五八
終末記抄		長島三芳	二六一
黄金文明抄		長島三芳	二六三
北國抄		井上靖	二六六
地中海抄		井上靖	二六九

平田橋抄	小池亮夫	二七一
鳥葬抄	平木二六	二七四
八月十五日抄	田村昌由	二七六
音楽の響き抄	南川周三	二七九
ちいさなちいさないのちたちの歌抄	宮崎讓	二八三
僕はある 僕はいない抄	藤原定	二八三
ボタンについて抄	櫻井勝美	二八六
泥炭抄	櫻井勝美	二八九
白い海藻の街抄	和田徹三	二九三
金属の下の時間抄	和田徹三	二九四
天地交驪抄	河邨文一郎	二九七
山巔の火抄	河邨文一郎	二九八
物質の真昼抄	河邨文一郎	三〇二
絃樂器抄	佐川英三	三〇五

現代紀行抄	佐川英三	三〇六
愛と死の数え唄抄	嵯峨信之	三〇八
魂の中の死抄	嵯峨信之	三四
重たい手抄	天野 忠	三六
單純な生涯抄	天野 忠	三八
動物園の珍しい動物抄	天野 忠	三九
火の分析抄	澤村光博	三三
サンチョ・パンサの帰郷抄	石原吉郎	三三〇
石原吉郎詩集抄	石原吉郎	三三九
日常への強制抄	石原吉郎	三四一
水準原点抄	石原吉郎	三四三
夕刊流星号抄	足立卷一	三四三
石をたずねる旅抄	足立卷一	三四五
バカらしい旅行抄	足立卷一	三四七

海がわたしをつつむ時抄	磯永秀雄	二四九
階段抄	大野新	三五五
藁のひかり抄	大野新	三五九
大野新詩集抄	大野新	三六一
悪霊抄	片岡文雄	三六三
この眠りの果实を抄	片瀬博子	三六六
おまえの破れは海のように抄	片瀬博子	三六七
わがよわいの日の抄	片瀬博子	三六七
零時抄	金丸樹一	三六九
日蝕抄	金丸樹一	三七一
日付のない日記抄	中村千尾	三七三
後半球抄	三井ふたばこ	三七五
空気の痣抄	三井ふたばこ	三七九
シベリヤ詩集抄	長尾辰夫	三八〇

斷層抄		殿内芳樹	三八二
黒い水晶體抄		大瀧清雄	三八六
不在の盗人抄		大瀧清雄	三九一
ゲンの馬鹿抄		齋藤庸一	三九三
雑魚寝の家族抄		齋藤庸一	三九六
動物哀歌抄		村上昭夫	四〇〇
夜の果への旅抄		鷺巣繁男	四〇七
定本鷺巣繁男詩集抄		鷺巣繁男	四一〇
記憶の書抄		鷺巣繁男	四一六
薔薇の木にせの恋人たち抄		高橋睦郎	四一九
汚れたるものはさらに汚れたることをなせ抄		高橋睦郎	四二五
愛について抄		安藤一郎	四二九
経験		安藤一郎	四三〇
遠い旅抄		安藤一郎	四三一

夢のあいだ抄		安藤一郎	四三
磨滅抄		安藤一郎	四四
われわれのにがい義務抄		關口 篤	四六
梨花をうつ抄		關口 篤	四六
言語論抄		平井照敏	四一
イミタチオクリスチ抄		角田清文	四四
五時の影抄		菊地貞三	四八
おれの地球抄		菊地貞三	四九
葬列抄		齋藤 忘	五一
記憶抄		清水高範	五四
遊女抄		寺門 仁	五八
少年抄		清水 昶	六三
朝の道抄		清水 昶	六四
野の舟抄		清水 昶	六七

水甕座の水抄	清水哲男	四〇
水中火災抄	佐々木幹郎	四三
解説	大岡 信	四七

凡例

- 一 本巻収載の対象となった作者・詩書は膨大な数に上ったため、紙数の限度によりすべての詩書は抄出とした。しかしそれらの詩書の全貌を窺うことができるよう、その目次を冒頭に掲げた。
- 一 それぞれの文末に各詩書の発行年月日・発行所名・判型・頁数および定価を記してその詩書の型態を推測できよう意を尽した。記載中、体裁の個所で148×182等の数字は、横一四八ミリ、縦一八二ミリのことであり、上製・並製本の称呼は、前者はボール厚表紙本綴を、後者は紙薄表紙あるいはフランス装などを表わすものである。また序文・本文・目次等の記載の順序は各詩書の構成によった。
- 一 排次は原則として同一作者の下にその作者の詩書・詩篇を一括し、単行詩書の発行年代順に配列する方針をとった。
- 一 収載した詩篇は、原則として初版本を底本として用いたが、作者が初版本に訂正を申し出た場合、および作者が特に底本を指定した場合についてはこの限りではない。
- 一 語法・用語等については作者の趣味や慣習によるものと考え、若干の詩篇の多少の混乱はそのままにした。ただし印刷上の誤りと認められるものについてはこれを訂正した。

